

◆編入試験・入学試験

帰国生に対して特別な受け入れ態勢のない学校では、現在進行している学校の教育活動にその生徒がついていけるかということを判断の基準にせざるを得ません。例えば、普通に授業で使われている日本語が理解できなければ合格させることはできません。また、編入の時期も、学年の初め、学期の変わり目などに限られてしまう場合が多くなります。

啓明学園では、帰国生の受け入れのためのシステムがあり、日本語の弱い生徒も指導できるので、一般の授業にすぐに入っていくのが難しい生徒にも対応することができます。ですから、編入試験には日本語の面接やエッセイがありますが、日本語が全くできなくても問題ありません。日本語の試験の結果は、合否の判定のためというよりは、入学後の指導の資料という意味合いになります。日本語ができなくても、今まで住んでいた国の言葉でしっかり学習ができていた生徒は、他の学校では迷惑な存在になるかもしれませんが、啓明学園では大歓迎ということになります。外国語の試験は、英語だけでなく、原則としてどの言語でも、自分の一番得意とする言語で受けることができます。

試験の形も、帰国してから受験するほかに、一時帰国のときにあらかじめ試験を受けておく、海外の会場で受験する、インターネット等を利用して海外の自宅で受験するという方法があります。時期も、受験生の事情に合わせて一年中いつでも可能です。啓明学園は、もともと帰国生の教育のために創立された学校なので、特に帰国生のための配慮は手厚いと言えるかもしれません。

◆入学

編入試験に合格して手続きが終れば、学校生活についてのオリエンテーションを受けて、すぐに入学することができます。生徒が入学するまでに、試験のときのデータなどに基づいて、取り出し指導や英語のクラス分けなどの手配をすべて整えます。啓明学園の初等学校・中学校・高等学校に海外から入ってくる生徒は年間 70 名あまりです。日本の学年初めである 4 月とアメリカなどでの学年の変わり目となる 9 月には特に多くなりますが、生徒たちは、一年をとおして新しい友達を迎えることに慣れており、それを楽しみにしています。帰国生の割合は、小学生の約 4 分の 1、中学生の約 3 分の 1、高校生の約半分です。



帰国生の受け入れの態勢のある学校でも、そのシステムはさまざまです。例えば、啓明学園では、帰国生も国内生と同じホームルームに所属し、必要な教科の授業のときだけ「取り出し」の形で特別な授業を受けるのですが、学校によっては帰国生だけでクラスを編制する場合もあります。

どんな学校であっても、すべての生徒にとって最善の環境というわけにはいきません。特に私立学校の場合は学校の個性も強く、スタッフや施設設備の制約もあるので、どうしても編入試験や入学試験を行うことになります。このような試験は、本来、いわば生徒と学校の相性診断のようなもので、一般的に生徒の能力が高いか低いかを測るようなものではありません。ですから、ある生徒は A 校に合格して B 校には不合格になったが、別の生徒は A 校は不合格で B 校に合格するというようなことが起きるのは当然のことです。国内の受験生のようないわば等質の集団の中で、似たり寄ったりの入学試験を行っている学校への合格の可能性を予測するには、模擬試験の偏差値などを利用することにある程度の合理性があります。その結果、「難しい学校」「入りやすい学校」というランク付けが生まれてきて、できるだけ難しい学校に入るのがよいという発想にもなりがちですが、それを帰国生にあてはめることは大きな間違いと言わなければなりません。バックグラウンドも経歴も一人ひとり全く違う帰国生の場合には、それぞれの個性を十分に考慮して受験の方針を考えていく必要があります。

~~~~~

**啓明学園 初等学校・中学校・高等学校**  
**国際教育センター**

〒 196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15  
TEL : 042-541-1003  
HP : [www.keimei.ac.jp](http://www.keimei.ac.jp) E-mail : [kokusai\\_info@keimei.ac.jp](mailto:kokusai_info@keimei.ac.jp)



啓明学園での帰国生受け入れのプロセスの紹介です。

この学校は、「帰国生のための学校」として、70 年にも及ぶ入経験があります。その中で生れてきた、海外から帰国した児童生徒がスムーズに日本の学校生活に適應していける、啓明学園独自の工夫がそのプロセスの中に見られます。注意深く、お読みください。